



事業・参加報告 — report —

日本女性会議 2014 札幌

2014年10月17日(金)～18(土)／北海道札幌市札幌コンベンションセンター

未来の景色は、わたしたちが変える。



日本女性会議は1984年に始まり、31回目。今年度は札幌市で『未来の景色は、わたしたちが変える。』をテーマに、北海道で初めての開催となりました。

1日目は、10の分科会が行われました。第6分科会『おうちビジネス』つて何?女性が輝く働き方』では、講師の畠原理恵さんが、「理想のライフスタイル」を実現させることを目的とした、自宅で始めるお一人さま企業「おうちビジネス」の事例を挙げ、「女性の埋もれている能力を発掘し、日本を元気にしたい」と話しました。第5分科会「女性が活躍する社会に向けて～アメリカから日本の女性へのメッセージ～」では、講師の在京米国大使館政務担当公使のダーナ・ウェルトンさんが、「女性は社会のものさしになる。女性の身の安全と男女の平等性が、各国の安定や平和と相互関係にあります。世界中の人々に自由と民主主義のもと、平和・平等・繁栄の機会を確保するために、皆さんの社会参加が必要なのです」と話しました。

2日目は、ヴァイオリニストの大平まゆみさんの特別講演や、筑波大学体育系准教授/柔道家の山口香さんの記念講演が行われました。大平さ

んは、これまでの音楽家人生を振り返り、「尊敬する女性音楽家から『多くを語らず、態度で示して』とアドバイスを受けたことをきっかけに、音楽を通して人を元気にすることに力を注いできた」と話しました。山口さんは、「強くやさしい社会を実現するために」と題して、女子柔道界への思いや歴史を説明し、「男性も女性も互いの違いを理解し、その違いに価値を見いだすことが大切」と話しました。

シンポジウム「今、ここからはじまる」では、全国地域婦人団体連絡協議会の柿沼トミ子会長や、札幌弁護士会の秀嶋ゆかり弁護士、株式会社きのとやの長沼昭夫社長、今会議実行委員長の林美恵子さんが男女共同参画の課題や解決策について議論しました。最後に林委員長が、「変わるべきは、わたしたち自身でもあり、わたしたちの身近な人たちに男女共同参画社会という希望を語り続けましょう」と話し、2015年開催地、岡山県倉敷市へバトンを渡しました。

転入女性交流のつどい

第1回目 2014年10月15日(水) 第2回目 2014年12月3日(水) / 渡辺町、いわき産業創造館企画展示ホール



第1回目は、いわき市に転入して3年以内の女性16名が参加し「いわきの農産物を見てみよう!」のバスツアーが行われ、市内3ヶ所をまわりました。まず、農事組合法人いわき菌床椎茸組合では、森のような香りと芳醇な味わいを持ついわき特産の椎茸の生産工程の見学をしました。次に、「地産地消彩花園」を訪れ、荒れるがままの農地を再生させるため栽培しているマコモについて学び、マコモタケを試食しました。最後は「中釜戸のシダレモミジ」を見学しながら親交を深めました。

第2回目の「クリスマス交流会」には、転入女性25名と「いわき転入女性の会」会員14名が参加し、いわきの良さや生活に役立つ情報交換を行いました。

【主催:いわき転入女性の会】